でも幸せなのに、もう一度プレゼントをしてくれてありがとうございます。誕生日に続いて、今日もまたさらに大きな贈り物をいただけたようでとても幸せです。僕らのために苦労されたすべての皆様へ、感謝を申し上げます。（2020/9/23 Stray Kids 승민スンミンSeungmin）

Stay！ 今日も大切なプレゼントをくださって心から感謝します。こんなにたくさんの愛情と、応援してくれていることもちゃんと分かっているし、STAYがとても誇らしいです。ありがとうございますStay、愛しています。（2020/9/24 Stray Kids 펠릭스フィリックスFelix）

以上は韓国の音楽番組『SHOW CHAMPION』で、新曲「Back Door」がランキング一位を獲得したことを受けてのものである。「Stay」とは同グループファンの通称で、彼らは“一位”をファンからもらった「大きな贈り物」、「大切なプレゼント」だと謝意を示した。ここで興味深いのは、ファンの応援行為に対してアイドルが「苦労 고생」という言葉を使っていることだろう。「愛情」や「応援」に起因するファン活動が、なぜ苦労という表現に結びつくのだろうか。このメッセージの背景には、K-POPアイドル産業と音楽チャートの結びつき、そして情報基盤としてのデジタル技術の進展という相互に切り離し得ない問題が横たわっている。

本論で詳述するように、韓国では前出の『SHOW CHAMPION』も含め、週に６つの音楽番組が放映されている。その最大の目玉が、各番組で毎週発表される楽曲ランキングである。新人アイドルにとって音楽番組での一位はスターダムへの登竜門でもあることから、受賞したアイドルが舞台上で涙を流し、事務所の社長やファンに謝辞を述べる光景も珍しくない。このランキングを左右する指標の一つに、フィジカルCDの売上や視聴者投票にくわえて、音楽配信サービス内のストリーミング再生数によって算出されるチャートの存在がある。

そのためアルバムリリースによって音楽番組への露出が増える「カムバ（컴백）」（＝楽曲リリース、comebackの意味）期間の活動中（앨범 활동 기간）、「推しに音楽番組で一位を取らせたい」という世界中のファンが互いに呼びかけ合い、ストリーミング再生数をかせぐための「回し」行為、通称「スミン（스밍）」が横行する。

つまり冒頭の「苦労」という言葉には、彼らが獲得した一位の背後にアイドルを押し上げようと奮闘する国内外のファンによる共闘的な試み――特定の時期に集中的になされる協働――が存在することを示唆している。こうした背景を踏まえて、本稿はK-POPファンへの質的調査を実施し、スミン行為の実態を探りながら、デジタル技術を介して遂行されるトランス・ナショナルなファンの「協働実践 cooperative practice」の一端を明らかにするものである。

２．本稿の分析視角

（１）デジタルファンダムと協働